

外国人留学生を対象としたキャリア支援プログラム実施報告 －2018年度新たな取り組みとして－

河野礼実

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

Implementation Report on Career Support Program for International Students: A New Approach to Career Support in 2018

Ayami KAWANO

Ochanomizu University; Student and Career Support Center

はじめに

2018年5月1日現在、お茶の水女子大学には218名の外国人留学生が在籍している。全218名の内訳は、学部生14名、大学院生139名、研究生29名、交換留学生28名、日本語・日本文化研修留学生8名であり、圧倒的に大学院生が多い。また、出身の国・地域別に見ると、中国が126名で最多であり、全体の57.8%を占める。韓国19名、台湾14名と東アジア諸国が続き、ベトナム、タイ、ロシア、イタリアなど35の国や地域から来日した留学生がお茶の水女子大学で学んでいる。

私費外国人留学生を対象とした、日本学生支援機構(2019)の調査によると、64.6%の学生が卒業・修了後「日本において就職」を希望していることが明らかになった。本学においても、卒業・修了後、日本において就職を希望する留学生は少なくない。しかし、日本で就職を希望する留学生に対し、お茶の水女子大学学生・キャリア支援センターではこれまで、特に留学生に特化した行事は実施しておらず、全学対象のキャリア支援行事への参加、キャリア相談(個別相談)の活用を促すに留まっていた。留学生が自身のキャリアをデザインし、日本で就職することを見据え、就職活動を行う際、彼らが抱える課題は、日本人学生と同一のものもあるが、留学生ならではの課題も少なくないと考えられる。そこで、お茶の水女子大学学生・キャリア支援センターでは、これまでの支援を見直し、2018年度より新しい試みとして、外国人留学生に特化したキャリア支援プログラムを開始した。本稿では、2018年度実施した外国人留学生対象キャリア

支援プログラムについて報告する。

外国人留学生を対象としたキャリア支援行事の実施内容

お茶の水女子大学学生・キャリア支援センターが企画するキャリア支援プログラムは、基本的に全学部全学年を対象としており、ガイダンス、セミナー、ワークショップ、キャリア相談で構成されている(服部,2017)。2018年度外国人留学生を対象としたキャリア支援行事としてガイダンスおよびワークショップの2種を実施し、これまで通りキャリア相談で個別に相談対応を行った。ガイダンスおよびワークショップは、日本で就職したいと考えている外国人留学生が、就職活動を行う上で役に立つ情報を提供すること、同じ境遇にある留学生同士が集まる場をつくり、ネットワークを構築する機会を提供することを目的とした。いずれの行事も授業時間と重ならないように、昼休みに開催した。

なお、筆者は当該ガイダンスおよびワークショップの企画・運営を主に担当し、当日は講師兼ファシリテーターも務めた。筆者は外国人留学生の日本語教育に携わったキャリアを持つ。その経験とキャリア支援の知見を活かし、外国人留学生を対象としたキャリア支援プログラムの構築に取り組んだ。

(1) ガイダンス

ガイダンスは4月に1回、10月に2回*開催した。留学生が就職活動をする際、日本の就職活動の仕組みを十分に理解しておらず、準備不足となってしまう場合が少なくない。そこで、新入生の多い4月のガイ

ダンスでは、日本独自の就職活動の仕組みや雇用に関する慣習および留学生の就職事情など、日本で就職を目指す際に役立つ情報を概略的に得られる機会とした。参加者は11名で、ほとんどが博士前期課程1年生であった。本ガイダンスは、日本での就職を希望・検討している外国人留学生に対し、日本での就職および就職活動に関して早期理解を促す場となった。

10月のガイダンスでは、日本の就職活動および雇用文化の特徴について触れた上で、就職活動および入社までの流れ・スケジュールを実際のデータとともに確認し、これから就職活動を進める上でのポイントを把握する機会とした。同内容で2回実施し、12名の学生が参加した。特に2020年卒業・修了予定の学生にとっては、日本における就職活動の概要を再度確認することができ、今後自身が取り組むべきことが明確になった様子であった。また、他学年の学生にとっても、日本の就職活動に関する基本的な情報を獲得し、母国との相違を知ることで、今後キャリアについて考える際の材料を得る機会となった。

なお、4月・10月いずれのガイダンスでも、留学生に特化したものではない、全学対象のキャリア支援行事についてそれぞれの概要と活用法を伝えた。行事の情報を入手する機会を提供したことで、一部の学生は全学対象のキャリア支援行事にも積極的に参加するようになり、外国人留学生を対象としたキャリア支援行事と全学対象のキャリア支援行事の双方をうまく活用している様子がうかがえた。

(2) ワークショップ

学生・キャリア支援センターでは、2018年度外国人留学生を対象としたワークショップを2種・全3回開催した。1つめは、6月に「業界を知る」をテーマに実施し、6名の学生が参加した。本ワークショップでは、3名ずつグループに分かれ、業界に関する理解を深める活動を行った。参加学生にとっては、「業界・企業研究」のきっかけとなった。

2つめは、11月に「エントリーシート作成」をテーマとしたワークショップを実施した。同内容で2回実施し、9名の学生が参加した。株式会社クオリティ・オブ・ライフ(2012)の調査によると、日本で就職活動を行った留学生の約8割が「エントリーシートの作成」に苦労したと答えており、最も高い割合であった。そこで、本ワークショップでは、本格的に就職活動が始まる前に、エントリーシートとは何なのか、その書き方やポイントなどを留学生たちに知ってもら

機会とした。ワークショップ開催後、ワークショップ時に配布したシートを活用しつつ、自己PR文を作成し、自ら添削を申し出る学生も現れたことから、本ワークショップは、自己分析(自己理解)に取り組み、その内容を言語化するきっかけにもなったと考えられる。また、ワークショップという形式で、参加者同士で取り組むタスクや参加者同士の対話機会を設けたことも起因し、ワークショップ終了後には参加学生間で情報交換・情報共有する姿も見られた。

以上が、お茶の水女子大学学生・キャリア支援センターで2018年度新たに開始した、外国人留学生対象のキャリア支援行事である。

(3) インタビュー

2018年度前期にガイダンス、ワークショップをそれぞれ1回実施したのち、今後の支援について検討する上で、外国人留学生たちが抱えている課題や必要としている支援を把握すべく、前期支援行事参加者を中心にインタビューを実施した。実施時期は2018年9月から10月である。インタビューは個別に行い、協力者は6名であった。1時間ほどの半構造化インタビューで、これまでの経歴や現在の学校生活のこと、今後のキャリアプランなどについて尋ねた。6名と限られた人数に対するインタビューではあったが、一人ひとり丁寧に話を聞いたことで、これまでのキャリアや今後のキャリアビジョン、現在抱える悩みなどにおける個性・多様性が明らかとなった。出身国や現在の専攻のみならず、年齢、経歴(学歴および職歴)、日本語能力、日本での就職に対する本気さ、進路について相談できる相手が周りにいるかどうかなど、学生によって実にさまざまであった。例えば、学歴や職歴に関しては、大学院生が母国では現在とは全く異なる専攻で学部を卒業している例や、母国で5年近く働いた経験があり、その経験を活かして新卒採用の枠ではなく、中途採用の枠で就職活動を行ったほうが適切な例があった。以上の結果を受け、留学生のキャリア支援を行う際、さまざまな背景を考慮した支援が必要であることを学生・キャリア支援センター内で共有し、学生たちへの働きかけや情報提供に役立てた。

インタビューイーの留学生たちからは、「インタビューを通して自身のこれまでを振り返り、整理することができた」「自分自身について考える時間をこれまでなかなかとれなかったのが、このインタビューはよい機会になった」といった感想があった。また、インタビュー中、キャリアや就職活動についての悩みを

相談する学生も多かった。インタビューとして設定した時間ではあったが、学生たちにとっては、これまでのキャリアの整理、自己理解・自己分析、相談の場となったようだ。

今後もキャリアについての相談をしたいが、学生・キャリア支援センターで相談にのってもらえるかと申し出る学生もいた。前述したように、お茶の水女子大学では個別にキャリア相談を実施しており、留学生もその対象である。しかし、インタビューイー1名からは「留学生はキャリア相談を受けられないと思っていた」という誤解も語られた。今回のインタビュー実施は、学生・キャリア支援センターにはキャリアについて相談できる人がいるという意識づけに繋がったと考えられる。しかし、支援を必要とする留学生に、学生・キャリア支援センターの存在やキャリア相談などの支援プログラムが十分に周知されていないということも改めて明らかになった。支援を必要とする学生への周知は今後の課題である。

なお、本インタビューは2018年度前期に開催した外国人留学生対象キャリア支援行事に参加した学生を対象として実施したものであり、限られた対象へのインタビューとなった。支援者側から働きかけたインタビューではあったが、結果として学生にとってもメリットが得られることから、今後はさらに対象を広げた実施が望まれる。

キャリア支援行事参加学生について

2018年度実施した外国人留学生対象のキャリア支援行事には、延べ38名の学生が参加した。国・地域別に見ると、中国出身の学生が最も多く、これは「はじめに」で述べたように、お茶の水女子大学に在籍する外国人留学生の約6割は中国出身者であることから、当然の結果と言えよう。中国の他には、韓国、台湾、ラオス、ロシア、タジキスタンの学生が参加した。学年別では、博士前期課程1年生が最も多く、延べ24名であった。学部生はその母数の少なさから2名にとどまった。中国出身の博士前期課程1年生が38名中23名であり、参加学生の6割を占めていた。

キャリア支援行事に参加した留学生の感想、学び、気づき

外国人留学生を対象としたキャリア支援行事では、毎回アンケートを実施した。本アンケートは記名で行

い、アンケート内にはふりかえりとして「今日の感想、学んだこと、気づき」を自由に記述する欄を設けた。以下では、参加した学生の記述を一部取り上げる。

まず、就職活動の大体の流れを把握できてよかったという声が複数名から上がった。

- ・就職活動の大体の流れが分かりました。大変助かりました。
- ・就職活動が始まるのは思っていたより結構早い。
- ・大体のイメージができた。具体的に就職する前に、何をすればいいかわからなかった。今日参加して、いろいろなことがわかった。
- ・就職についていろいろ情報をもらってよくわかりました。特に、就職活動のスケジュール、いつ、何の準備をするか勉強になりました。

在学中に就職活動をする事は知っていても、流れやスケジュールを把握できずにいた学生も少なくなかったため、キャリア支援行事では就職活動に関わる基本事項を当日参加した学生たちの既有知識・理解度に合わせ、説明を行った。また、以下のように日本人学生との「感覚」の違いを挙げた学生もいた。

- ・就職の時期感覚もやはり日本人といろいろ違いますので、今日気づかせてくれて助かりました。

母国の慣習や文化との違いに関しては、以下のよう

- ・日本の就職活動は複雑で、他の国とは違うことがわかりました。このガイダンスで日本で就職する気持ちが強くなりました。
- ・日本は私の国と結構似てるところがたくさんありますが、実際詳しく見てみると、違う点もあると思いました。
- ・なぜ自己分析が大事なのか、なぜ会社からうちの会社に入りたい理由を聞かれるのか今までよくわかりませんでした。今日やっとわかりました。日本の文化を理解していないと、就職活動をやっているうちに迷子になると思います。

ガイダンスやワークショップが、母国の雇用・採用文化と日本の雇用・採用文化の相違を知る機会となったことがうかがえる。6月のワークショップに参加したある学生は、就職活動をすでに経験していたが、企業

から「その会社に入りたい理由」を聞かれる理由がよく分からなかったと言う。ワークショップ中に日本の雇用文化に関する説明を聞き、「情報としては知ってはいたけれど、なぜそうするのか全く理解できていなかった。これまで就活をやってきたが、今日初めて納得できた。」と筆者に話してくれた。日本の就職活動および雇用・採用文化について説明する際には、留学生の視点に立ち、その背景を含め伝えることが必要だと改めて感じさせられた一言であった。

11月に開催したエントリーシート作成に関するワークショップでは、エントリーシートの書き方・ポイントがわかってよかったというコメントが目立った。

- ・エントリーシートを書く時のポイントを分かりやすく説明していただき、とても助かりました。
- ・相手の立場から考えることはエントリーシートを書く過程で大切なことだと気づきました。
- ・相手を意識しながら書くのも非常に勉強になりました。

開催時期に関しては、特に4月のガイダンスにおいて早めの情報収集に役立ったという声が聞かれた。

- ・早めに情報が収集できたのでとてもよかった。
- ・修士1年からキャリアについていろいろ考えたいところなので、とてもいいタイミングでした。

日本での就職を希望する場合、博士前期課程の学生は多くが1年次から就職活動を開始することとなる。準備期間の短さを考えると、早い段階での情報提供が重要となる。また、日本で就職を希望・検討している学生にとっては、修了後のキャリアを考える上での材料にもなるであろう。加えて、近年夏にインターシップを実施する企業が増加していることから、博士前期課程1年生にとって入学直後のガイダンスは有益であると考えられる。

また、アンケートには、「今考えていることや悩んでいること」を自由に記入できる欄も設けた。その一部を以下に挙げる。

- ・会社の情報とか、自分にはどんな会社がいいか少し悩んでいます。
- ・もし、企業ではなくて、NGOや国際協力機関に入りたい場合はどうすればいいですか。

- ・今は日本で就職するか、母国で就職するか迷っています。
- ・学部と修士の専門が違うのは問題がありますか。
- ・年齢が関係しますか。
- ・仕事経験が4年あります。どのような流れで就活を進めるのがいいか知りたいです。
- ・できれば、インターンシップに参加してみたいと思いますが、どうやって調べるのかよく分からないです。
- ・ES（エントリーシート）の書き方などを詳しく知りたいです。
- ・自己分析について悩んでいます。

就職先に関する悩みや、自身のこれまでのキャリアが就職活動へ及ぼす影響、企業の調べ方やエントリーシート作成の方法など、さまざまな記述が見られた。学生の中には、アンケート提出時に、記述した内容について相談したいと切り出す者もいた。また、悩みを記述してもらうことで、場合によっては、ガイダンス・ワークショップ担当者（筆者）から声をかけ、話を聞くこともできた。学生によっては、キャリア相談はハードルが高いと感じている者も少なくない。ガイダンスやワークショップ終了後に、その場でちょっとした相談ができるというのは、学生たちにとって負担も少なく、その後の日常的な支援へも繋がった。

考察と今後の実施に向けて

本稿では、お茶の水女子大学学生・キャリア支援センターが2018年度新しい試みとして実施した、外国人留学生対象キャリア支援プログラムについて報告した。初年度の実施結果をふまえ、今後の外国人留学生対象キャリア支援プログラムについて考察する。

まず、今年度参加留学生との対話を通して、彼女たちの背景や現在の状況、キャリアビジョンの具体性、抱える悩みなどは学生ごとに異なり、多様であるということが明らかになった。このことから、ガイダンスやワークショップなど、複数の学生に対し、一斉に支援を行うキャリア支援行事と、キャリア相談のような個別対応を組み合わせた支援が必要であることが改めて確認された。また、日本での就職および就職活動に関する既存知識や理解度、就職活動の進捗状況、加えて日本語力についても、学生間で幅が見られたため、ガイダンスやワークショップでは参加学生に合わせ、柔軟な対応が必要となった。今後も引き続き、「留学

生」と一括りにせず、個別性・多様性を念頭に置いた支援が求められる。

それから、2018年度はキャリア支援行事に参加した際、学生・キャリア支援センター教職員に質問できる機会を設けたのはもちろん、アンケートシートを介したやりとり、インタビューなど、支援者側（学生・キャリア支援センター）と留学生がさまざまな形でコミュニケーションをとれるようにした。その結果、学生たちが抱える疑問や悩みを早い段階で知ることができ、必要な場合は対応に移すこともできた。さまざまな方法で留学生とコミュニケーションをとることの重要性も今年度の支援より明らかになった。

2018年度構築した留学生対象キャリア支援プログラムを土台とし、今後さらなる改善・改良を加えた、継続的な支援が求められる。

今後の課題として以下に3点挙げる。まずは、学業と就職活動の両立に悩む学生への支援方法である。2018年度外国人留学生対象のキャリア支援行事に参加した留学生を学年別で見ると、博士前期課程1年が最も多かった。そして、その多くがお茶の水女子大学以外の大学を卒業した学生であった。大学院に進学し、まずお茶の水女子大学の生活に慣れ、日々の授業の予習復習、発表準備、レポートをこなし、さらには自身の研究や論文の準備を進める。前述したように、博士前期課程修了後、日本で就職したい場合、1年生のうちから準備を始める必要があるため、上記に就職活動の準備が加わることになる。実際、入学当初は日本で就職したいと考えていたが、学業と両立ができず諦めてしまう留学生も多い。こういった学生の中には、今後のスケジュールを把握できず、漠然と不安を抱えている者も少なくない。そこで、まず入学直後4月のガイダンスで日本の就職活動の大まかな流れを伝えるのは、学生たちが数か月後の状況を見据え、在学中の計画を考える上でも重要であると考えられる。ただ、それだけでは支援として十分とは言い難い。今後も、学業と就職活動の両立に悩む学生に対し、どういった支援ができるか検討していきたい。

次に、支援を必要とする留学生に対する、本キャリア支援プログラムの周知である。留学生を対象とした

キャリア支援プログラムは、今年度が初年度ということもあり、学内で十分に周知されているとは言い難かった。広報方法としては、学内各所へのポスター掲示の他に、学生・キャリア支援センターのHPにガイダンスやワークショップの開催情報を掲載した。さらには、お茶の水女子大学国際課が実施する「留学生オリエンテーション」でキャリア支援行事のチラシを配布していただいた。その結果、多くの学生がそのチラシを見て、ガイダンスに参加した。今後も学内関係機関と連携し、支援を必要とする学生への周知を図りたいと考える。

最後にネットワークの構築である。今年度参加した学生からは「留学生のOGや内定した先輩留学生の話を知りたい」という声がしばしばあがった。今年度開始したプログラムということもあり、OGや内定者とのネットワークが構築されておらず、実現しなかった。今後は、今年度参加した留学生たちを皮切りに、ネットワークの構築を図りたいと考える。そして、のちには彼女たちにOG・内定者として後輩たちに自身の経験を語ってくれることを期待したい。

注

* 同内容を2日程で実施。学生には都合の良い日程に参加してもらった。

参考文献

- 株式会社クオリティ・オブ・ライフ（2012）「平成24年度日本企業における高度外国人材の採用・活用に関する調査」。
- 独立行政法人 日本学生支援機構（2018）「平成28年度外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果」。
- 独立行政法人 日本学生支援機構（2019）「平成29年度私費外国人留学生生活実態調査概要」。
- 服部典子（2017）「キャリア支援プログラムの実施報告—学生の主体性を育むキャリア支援プログラムの構築—」『高等教育と学生支援』8, 50-53.

2019年3月17日 受稿